

3 平成21年度年間研究実績

(2) 学校評価運営委員会の内容

① 第1回学校評価運営委員会 平成21年5月21日(木)14:00～16:00

協議事項

(1) 学校評価の現状について (佐賀県教育委員会)

キーワードは「改善のための評価」「コミュニケーションツール」

(2) 「学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究」事業説明

(3) 質疑及び意見交換

・基本方針の5番目の小中連携について、9年を見こした学校評価をどのように進めていくかについての意見交換

(4) 講話

講師 佐賀大学 倉本哲男先生 「学校経営ビジョンと学校評価」

(要旨) ①「なぜ、学校評価が必要なのか」「形骸化しない、役に立つ学校評価とは」「PDCAで、CからAにつながらない現状をどうするか」等の指導

②「管理職のリーダーシップ」、「背中で示すリーダーシップ論」の講話

③「学級経営案からの学校評価との連動」と「評価のずれ」について嬉野メソッドの課題についての指導。及び、組織力としての学校マネジメントの推進。

② 第2回学校評価運営委員会 平成21年7月23日(木)14:00～16:00

協議

(1) 学校評価の事例発表

①「人と人がつながり 学校組織が活性化する 学校評価の取組」

久間小学校 高上教頭

②「教育の質を高め、学校の活性化を目指した学校評価の在り方」

大野原小中学校 池田教頭

(2) 意見交換

(3) 講演

演題 「よりよい学校づくりのための学校関係者評価」

講師 国立教育政策研究所 植田みどり先生

(内容) ①効果的な学校関係者評価の条件と流れ ②学校関係者評価委員会開催のポイント(構成員・評価活動計画・取組状況の説明・学校訪問・評価結果のとりまとめと活用) ③足立区での取組(評価方法と内容・自己評価書) 植田先生のご講話で、学校関係者評価の進め方のポイントが明確になった。

③ 第3回学校評価運営委員会 平成21年8月28日(金) 14:00～16:00

(1) グループ討議(3グループ)

内容: ①ガイドラインの構成 ②学校関係者評価 ③情報提供

(2) 全体会

① 各グループからの発表

② 全体協議

① ガイドラインの構成

・学校自己評価と学校関係者評価の関連性・目的、読み手を明確にした構成
・時系列でなく、まとめて分かりやすく
・言葉の定義を表記する など

- ② 学校関係者評価
 - ・学校自己評価が基本（メイン）で、次に学校関係者評価という位置付け
- ③ 情報提供
 - ・Q&Aの見直しが必要

(3) 指導助言

・佐賀大学 准教授 倉本 哲男先生

- (内容) ・学校改善論として子どもの視点を入れる。
- ・学校関係者評価は学校自己評価に客観性を持たせ補完する位置付けである。
- ・学校経営論・校務分掌・自己育成システムが連動する方法を構築する。
- ・小中連携、情報提供では、「幼稚園のたまり場」的な手立てが考えられる。

④ 第4回学校評価運営委員会 平成21年11月5日(木) 13:15～16:45
(学校評価実践発表会に含む)

(1) 基調講演 (13:25 ～ 14:50)

講師 玉川大学教職大学院 教授 小松郁夫 先生
演題 「保護者・地域住民と創る学校評価」

(2) シンポジウム (15:00 ～ 16:00)

コーディネーター 佐賀大学文化教育学部 准教授 倉本 哲男 先生
シンポジスト 玉川大学教職大学院 教授 小松 郁夫 先生
" 国立教育政策研究所 研究員 植田みどり 先生
" 学校評議員代表 嬉野市立吉田中学校 山炭 徳義 氏
" PTA 会長代表 嬉野市立嬉野小学校 橋爪 英彦 氏
" 学校代表 嬉野市立久間小学校教頭 高上 恵子 先生

(3) 指導・助言 (16:10 ～ 16:40)

講師 佐賀大学文化教育学部 准教授 倉本哲男 先生
テーマ 「学校評価が機能する学校マネジメント」

⑤ 第5回学校評価運営委員会 平成22年2月4日(木) 14:00～16:00

(1) 学校評価の事例発表

① 「学校評価を活かした学校運営組織活性化の取り組み」

嬉野小学校 古賀教頭

② 「学校運営協議会との協働による学校評価を生かした学校改善の取り組み」

嬉野中学校 徳永教頭

(2) 意見交換

- ・学校評価によって、学校が身近になり地域との結びつきが強くなった。
- ・学校に対して厳しい本音の意見も直接いただけるようになった。
- ・地域に支えられていると実感できた。学校評価をやって良かった。など

(3) 指導助言

国立教育政策研究所 植田みどり先生

- ・データの管理を日頃から適切に行い、評価に生かすことが肝要である。
- ・保護者、地域住民を「批判的友人」としての信頼関係に育てたい。など

佐賀大学准教授 倉本哲男先生

- ・「整合性をつけて重点化する」方針での評価項目の作成が重要である。
- ・トップダウンからボトムアップの方針で進めたのが好結果を生んだ。など